2019年3月期第2四半期
決算説明会

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

2018年11月13日

昭和産業株式会社

本日のスケジュール

Ⅰ．中期経営計画17-19の進捗　　13:30～

Ⅱ．2019年3月期第2四半期業績概要

Ⅲ．2019年3月期業績予想

Ⅳ．営業概況

代表取締役社長　新妻一彦

Ⅴ．穀物原料事情概況　　14:00～

原料部長　伊藤大祐

Ⅵ．質疑応答　　14:10～

Ⅰ．中期経営計画17-19の進捗

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

1-①. 基盤事業の強化

鹿島工場での大型設備投資

総投資額　約60億円

・機能性製品等の生産能力増強
・BCP対策

＜主な投資＞

①製油工場　抽出工程更新

生産効率向上

2018年2月着工/2020年9月竣工予定
投資額　約35億円

1-①. 基盤事業の強化

②糖質工場　粉末水あめ生産工程更新・増設

機能性商品の生産能力向上

2018年9月着工/2019年10月竣工予定
　生産能力　1.3倍
　投資額　約10億円

③荷役設備　ニューマチックアンローダー(※)の更新

穀物原料荷役効率の改善

2018年10月発注・製作開始/
2020年5月据付完了予定
　電力削減22%
　投資額　約10億円

※穀物をばら積み貨物船より吸い上げて荷揚げする荷役機械のこと

1-②. 基盤事業の強化・事業領域の拡大

セブン-イレブン向け　パンビジネス

グランソール
ベーカリー

タワー
ベーカリー

開発力強化

4社共同の開発センター

生産性向上

冷凍生地の相互生産を開始

スウィング
ベーカリー

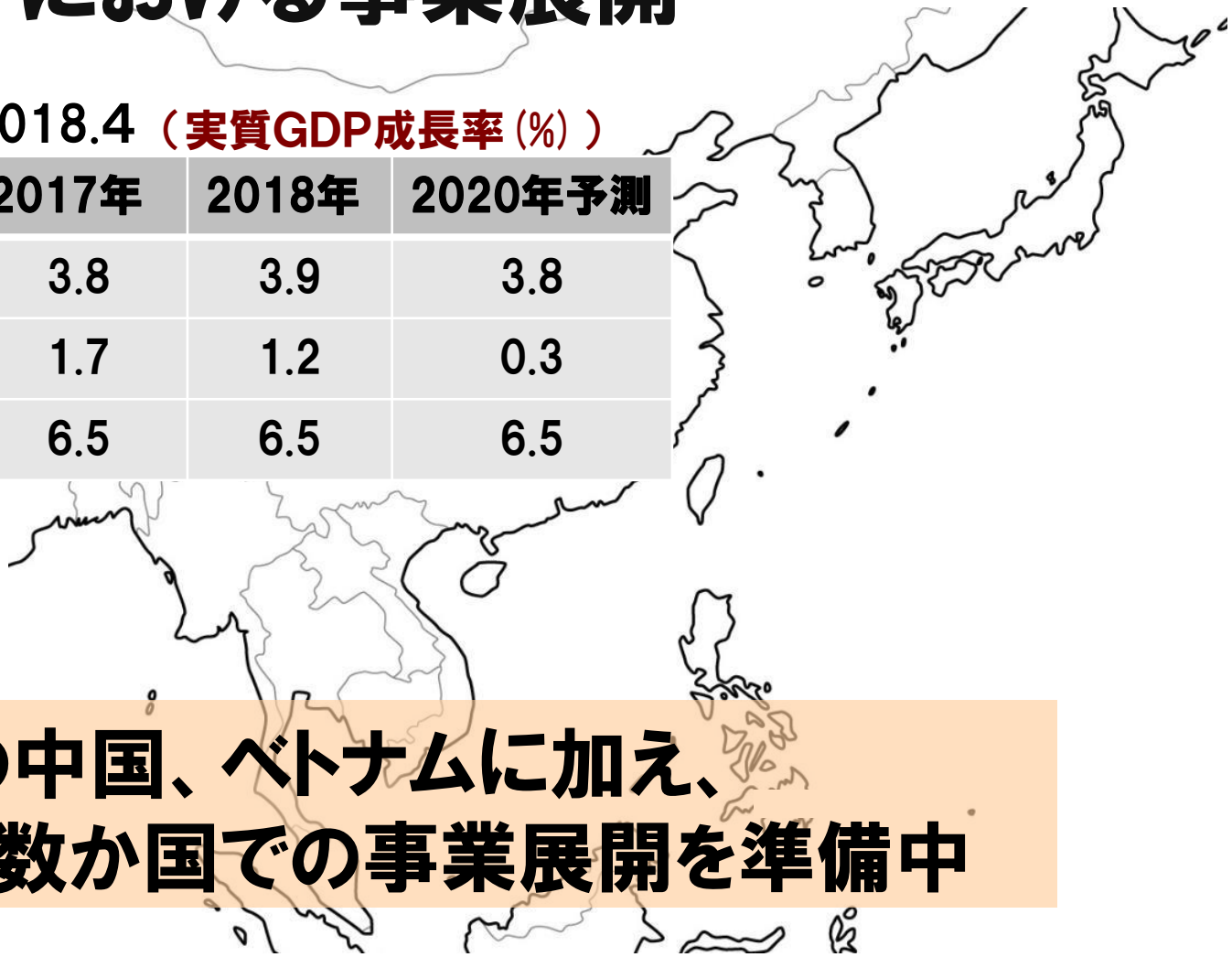
ガーデン
ベーカリー

2. 事業領域の拡大

東南アジアにおける事業展開

IMF経済見通し2018.4（実質GDP成長率(%)）

	2017年	2018年	2020年予測
世界計	3.8	3.9	3.8
日本	1.7	1.2	0.3
新興・途上アジア	6.5	6.5	6.5



既存の中国、ベトナムに加え、
数か国での事業展開を準備中

3-①. 社会的課題解決への貢献

ダイバーシティ経営宣言を公表

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業グループ

ダイバーシティ経営宣言

昭和産業グループは、「昭和産業グループ CSR 行動規範」に定める“人権尊重”を土台として、将来にわたり持続的に成長し続けていく企業として、ダイバーシティ経営を推進します。

次の３つの基本的な考え方『昭和産業グループ INC ポリシー』を踏まえ、従業員一人ひとりが自らの強みを最大限発揮できる職場づくりに取り組みます。

【昭和産業グループINCポリシー】

1.「 Inclusion 」
従業員一人ひとりの多種多様な価値観や考え方を受け入れ
その違いを活かし、イノベーションを生み出していきます

2.「 Normalization 」
従業員一人ひとりの個性を尊重し、特別ではなく、
すべてが当たり前のこととし平等に輝ける職場を実現します

3.「 Cooperation 」
従業員一人ひとりが互いに対等な立場で企業理念を共有し、
同じ目標に向い、ともに力を合わせて積極的に成長します

以上

2018 年 10 月 1 日

昭和産業株式会社
代表取締役社長 新妻一秀

持続的な成長を図るため
ダイバーシティ経営を推進

企業を取り巻く環境の変化に対応

↓

- 多様な価値観を有する人材の活用
- 個性と能力を最大限に発揮

↓

イノベーションの創出

3-②. 社会的課題解決への貢献

健康志向新商品の開発

2018年9月発売

※弊社独自の炊飯用
栄養機能食品

体への気遣い

毎日使いやすく

2018年9月発売

市場へ新たな価値を提供

3-③. 社会的課題解決への貢献

日本の食文化の継承と発展に寄与

天ぷらに関するマイスター制度導入

・天ぷらに関連した知識、技術、技能など
↓体系的に整理
次世代へ継承・発展
・2019年4月から制度導入、社内検定で認定

内定者研修で天ぷら調理体験

和食文化国民会議をサポート

Ⅱ．2019年3月期第2四半期
業績概要

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

1. 2019年3月期 上期業績

＜連結ベース＞

（百万円）

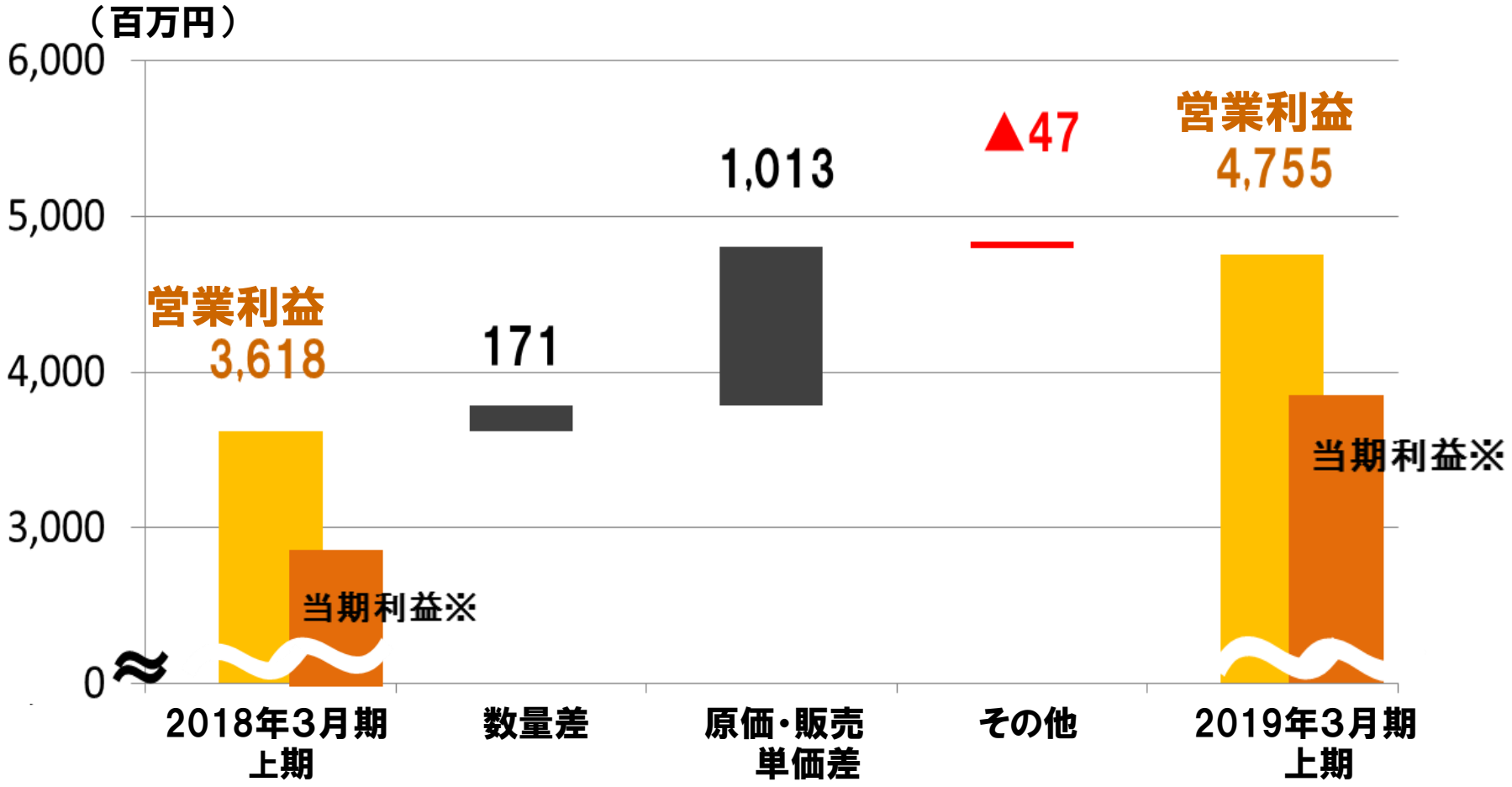
	2019年３月期 上期	2018年３月期 上期	増減	前期比
売上高	127,777	116,171	11,606	10.0%
営業利益	4,755	3,618	1,136	31.4%
経常利益	5,551	4,332	1,218	28.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,847	2,890	957	33.1%

2. 2019年3月期上期
連結営業利益の増減要因

2018年3月期上期
36億18百万円

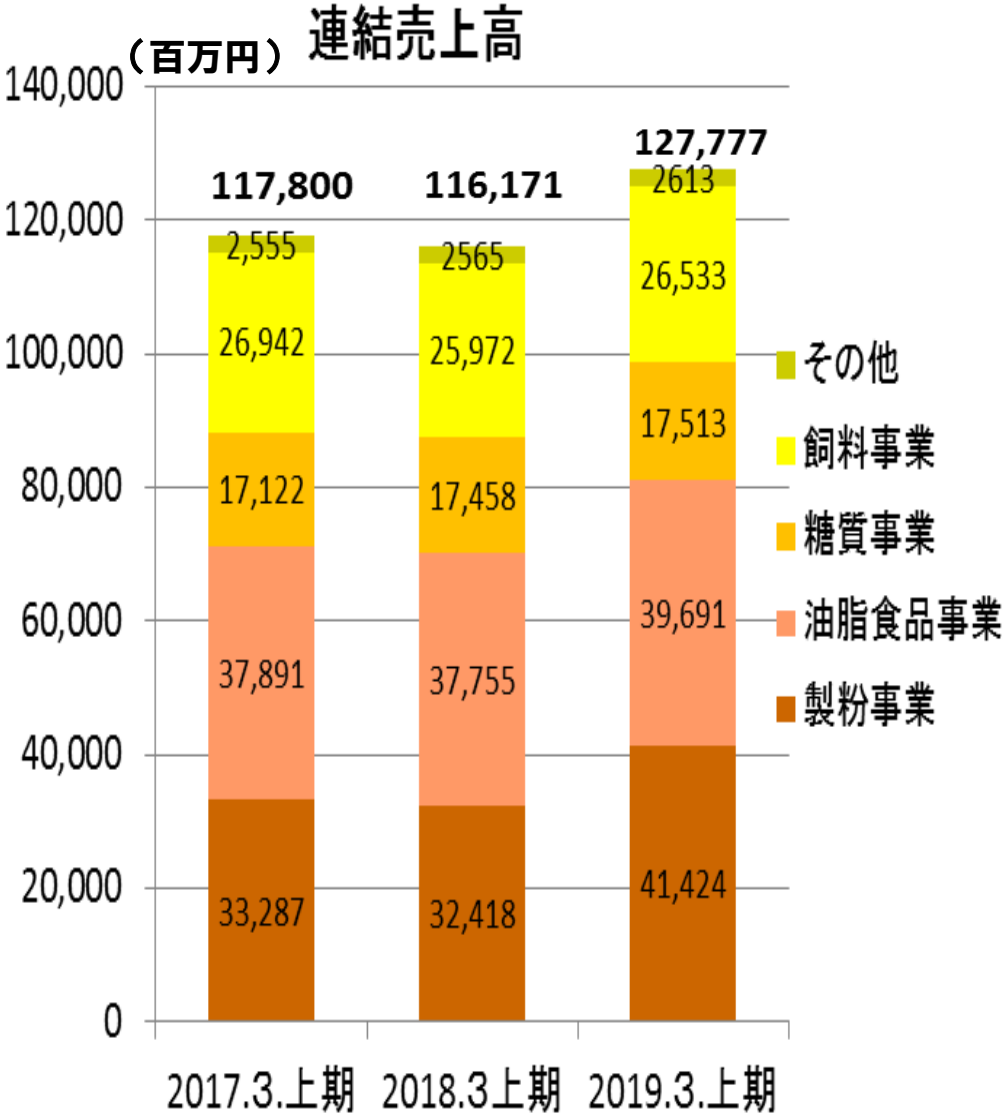
+11億36百万円

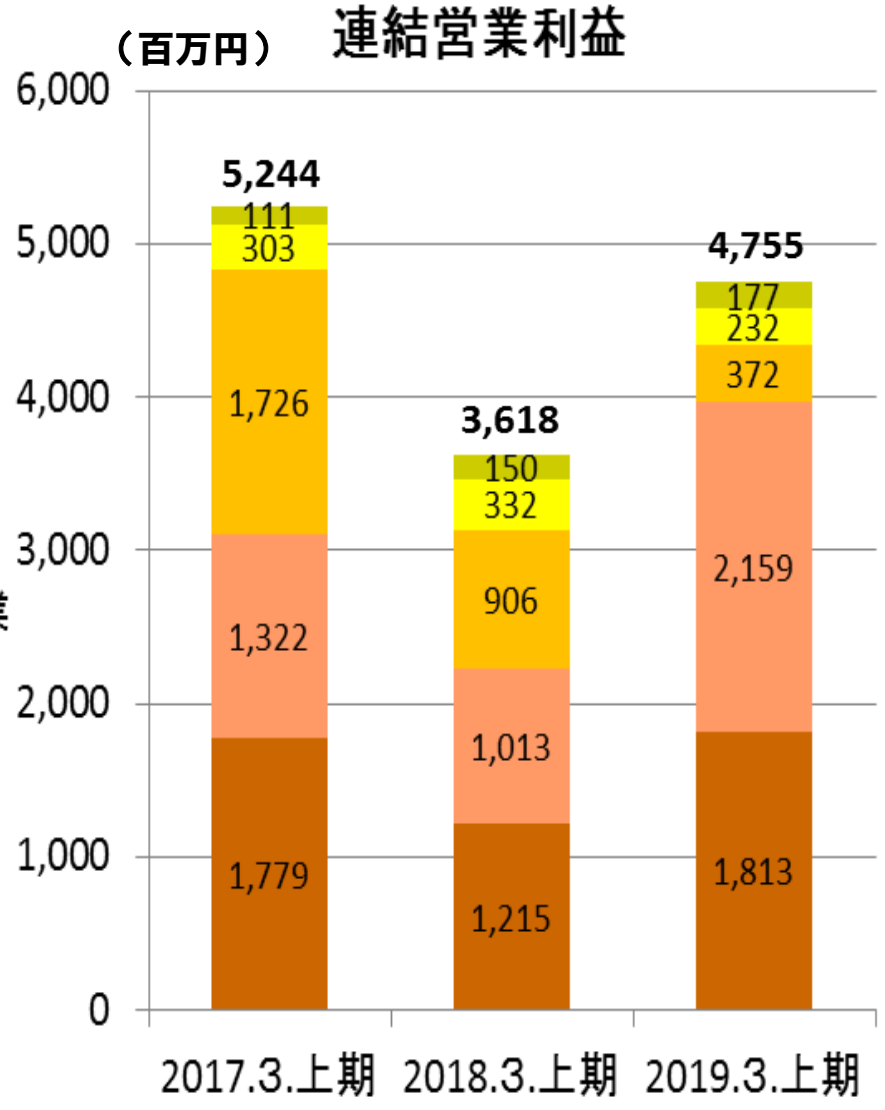
2019年3月期上期
47億55百万円



※親会社株主に帰属する四半期純利益

3. 2019年3月期上期　セグメント別業績





4. 2019年3月期上期 連結貸借対照表の概要

2018年3月期末		2019年3月期上期末
総資産　1,705億円	＋17億円 →	総資産　1,722億円

流動資産　▲0

売上債権	＋13
▲ 13	現金及び預金

負債　▲ 24

▲19	有利子負債
▲27	設備関係債務
未払法人税等	＋8

固定資産　＋17

有形固定資産	＋5
投資有価証券	＋4

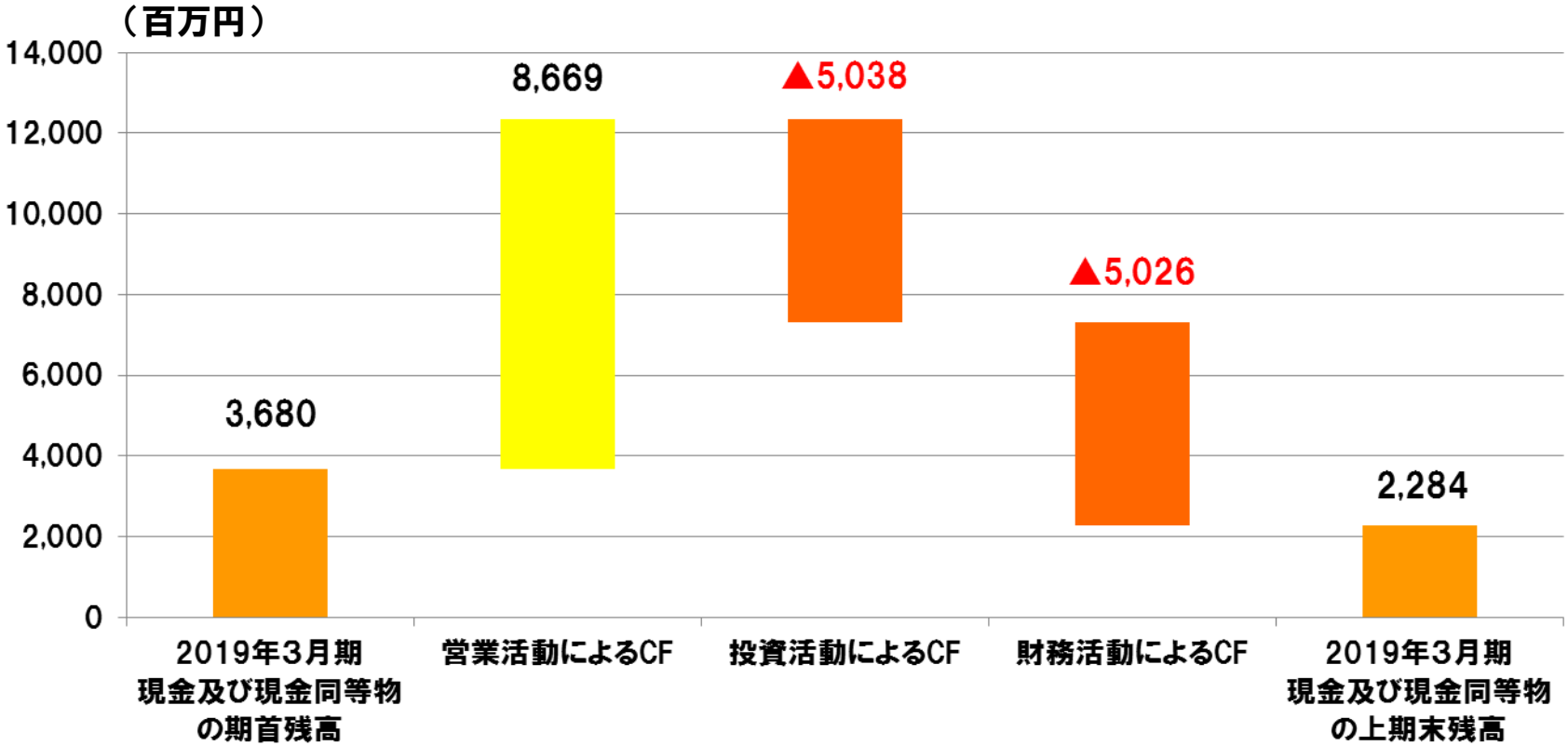
純資産　＋41

四半期純利益	＋38
その他有価証券評価差額	＋3
▲ 8	期末配当金支払

NET有利子負債	297億円	▲ 5億円
自己資本比率	47.5%	＋1.7%

5. キャッシュ・フローの概要

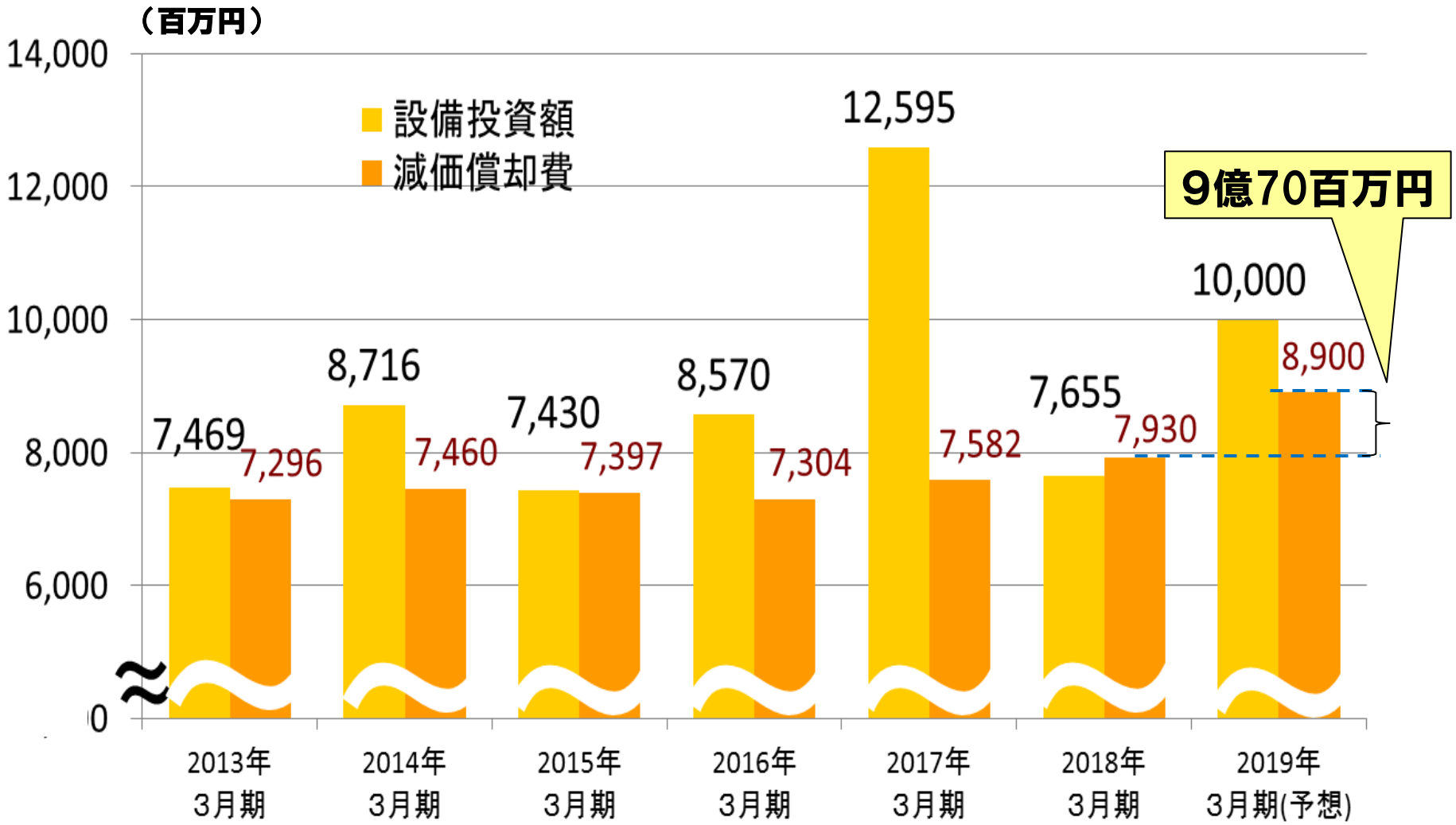
＜連結ベース＞



- 営業CF：税金等調整前四半期純利益・減価償却費等による資金の増加
- 投資CF：有形固定資産の取得等による支出
- 財務CF：借入金返済、配当金の支払いなどの支出
- 現預金残高：22億84百万円と期首比13億95百万円の減少

6. 設備投資額・減価償却費の推移

＜連結ベース＞



Ⅲ. 2019年3月期業績予想

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

2019年3月期　業績予想

＜連結ベース＞

（百万円）

	2019年 3月期 （予想）	2018年 3月期 （実績）	増減	前期比	前回予想	増減
売上高	260,000	233,166	26,834	11.5%	260,000	0
営業利益	7,900	6,556	1,344	20.5%	7,600	300
経常利益	9,100	7,737	1,363	17.6%	8,500	600
親会社株主に帰属する当期純利益	6,300	4,893	1,407	28.8%	5,500	800

Ⅳ．営業概況

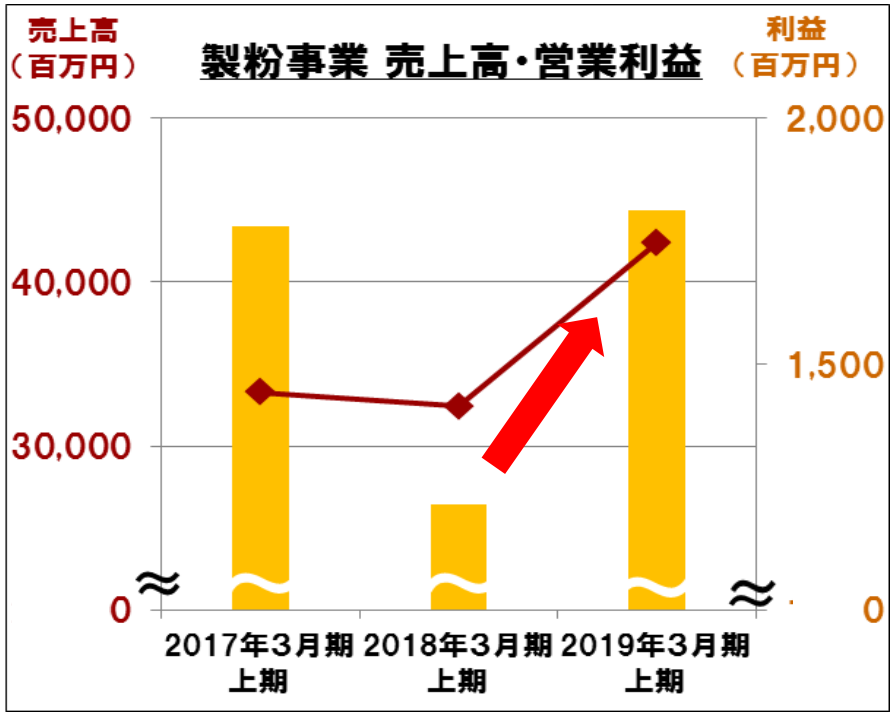
穀物ソリューション・カンパニー

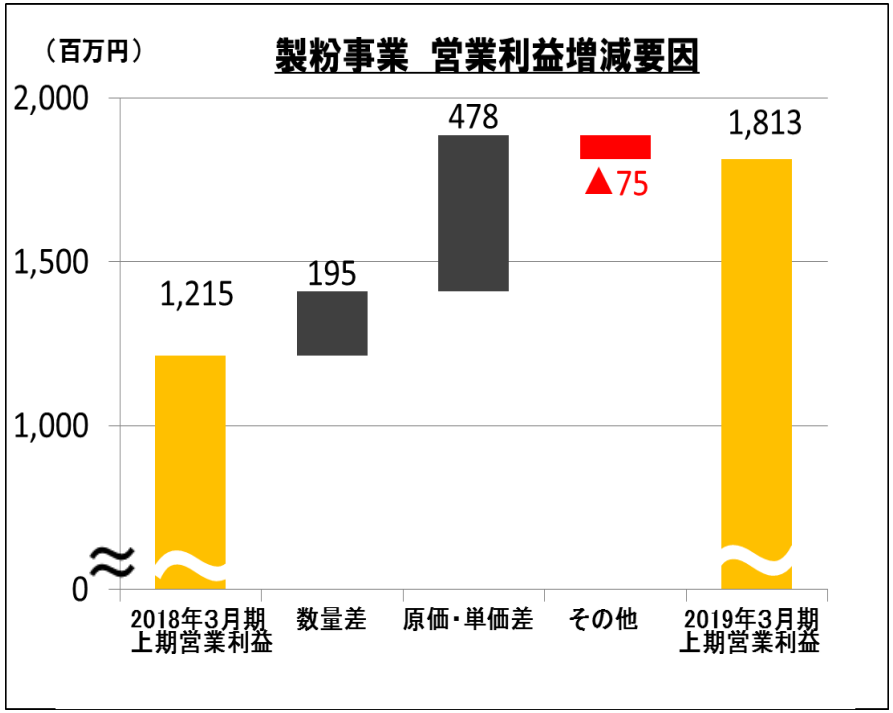
SHOWA

昭和産業グループ

1.セグメント別業績　製粉事業

上期業績



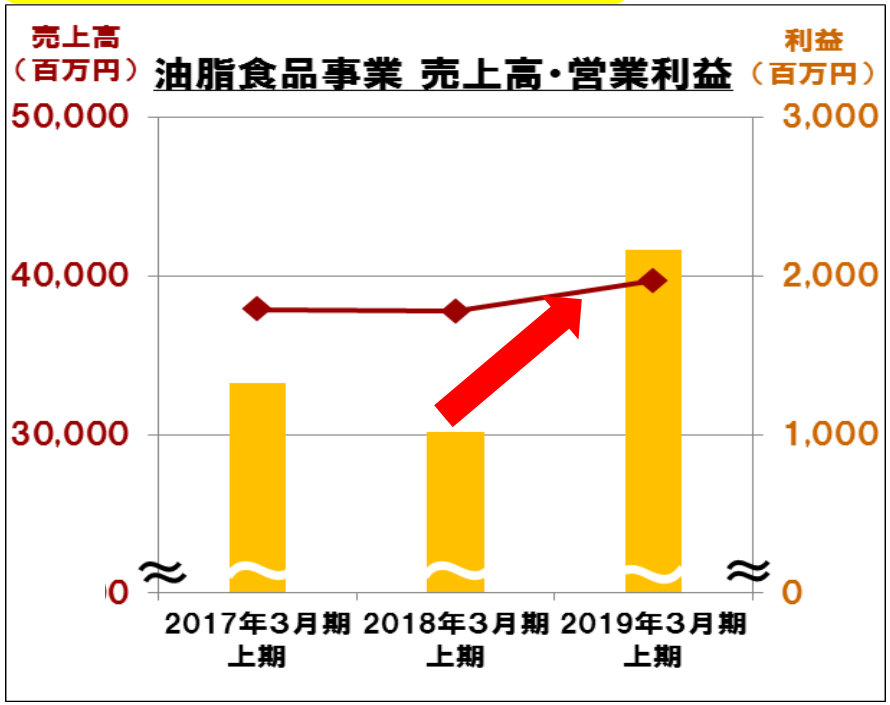


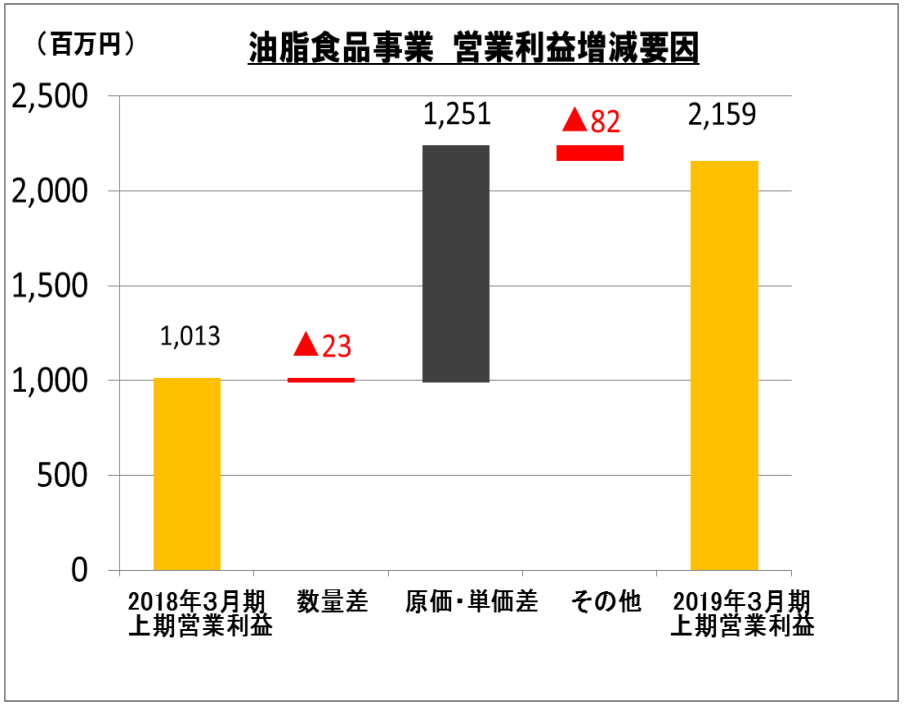
下期以降の施策

- 大手流通等に向け、エリア別・業態別の販売戦略を構築し拡販
- SBSカテゴリーIIIの活用等により、生産体制の最適化推進
- 2月の大型展示会出展に向け新商品を開発

2.セグメント別業績　油脂食品事業

上期業績



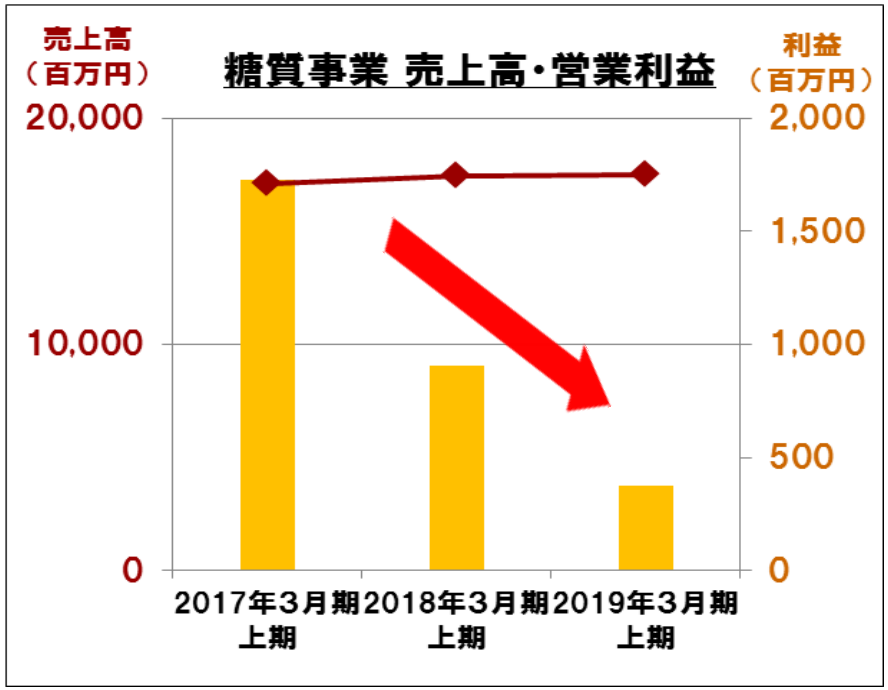


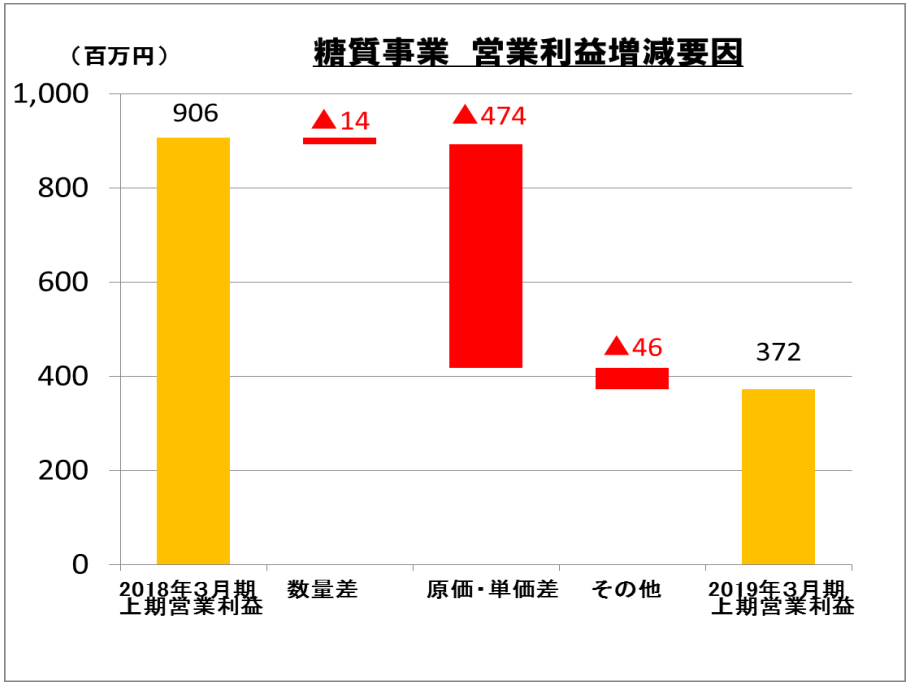
下期以降の施策

- 業務用：搾油環境に応じた販売価格の徹底
  油脂と食材のシナジーを生かした課題解決型提案営業
- 家庭用：プレミアムオイル（オリーブオイル）の拡売
  ホットケーキミックスでキャンペーン、季節連動の販促

3.セグメント別業績　糖質事業

上期業績



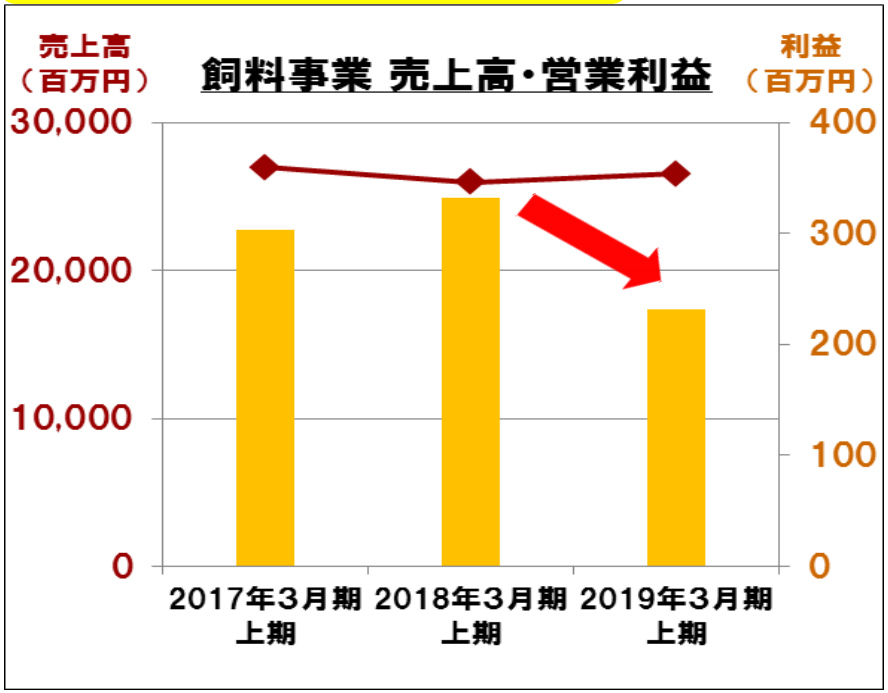


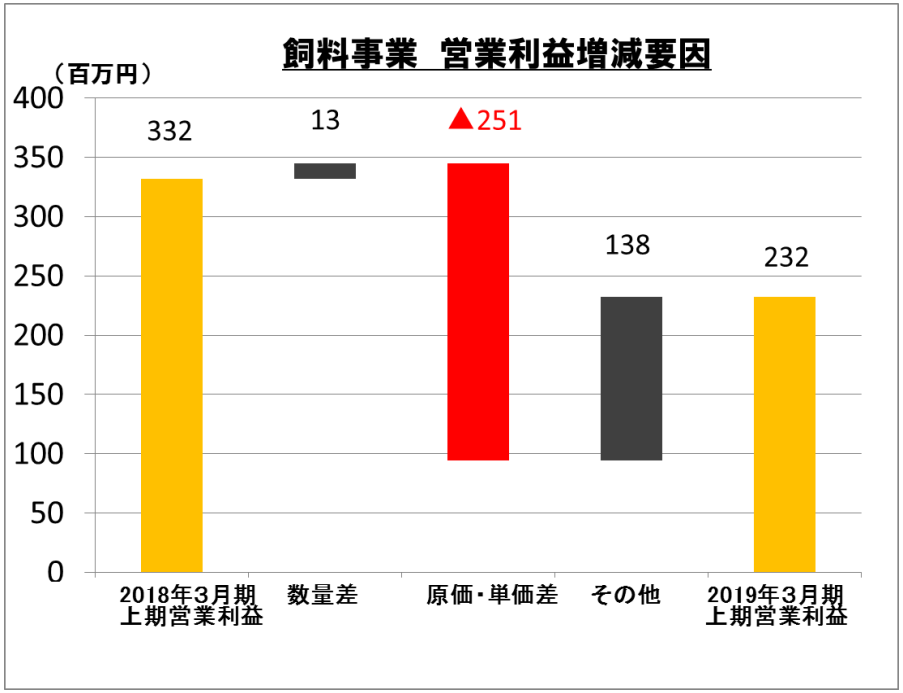
下期以降の施策

- 原料コスト増に対応した製品の価格改定を推進
- 工程ロス削減などコストダウンをさらに推進
- 機能性製品や食品用加工でん粉など独自商品の提案と拡販

4.セグメント別業績　飼料事業

上期業績





下期以降の施策

- 鶏卵を中心とした生産物の販売支援の取組を強化し飼料拡販
- 各部から飼料原料の販売を一元化・集約
  →販売・物流の最適化で利益向上

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その 達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。